第5回「宇都宮市児童相談所設置に関する検討懇談会」議事録

1. 日 時 令和7年2月13日（木） 午後7時00分～午後8時00分

2. 場 所 宇都宮市役所14階 14D会議室

3. 議 事 ・児童相談所の整備について

4. 出席者（委員：6名，随員：1名，事務局：14名，計：21名）

【委 員】

大竹智委員，飯村文俊委員，山形崇倫委員，福田雅章委員，稲葉幸嗣委員，大塚勝明委員

【事務局】

〔子ども部〕 高野部長，大出次長，富山副参事

〔子ども政策課〕 西山課長，近藤補佐，江原室長，高橋主査，
加藤主任主事，増山主事

〔子ども支援課〕 大嶋課長，大牧主幹，関室長，加藤補佐，西田所長

5. 公開・非公開の別 公開

6. 記者・傍聴者数 4名

発言者	内 容
	<p>1 開会 要綱の改正，会議の公開について決定</p> <p>2 議事 「児童相談所の整備について」</p>
事務局	(事務局説明)
会長	本日欠席の委員よりご意見を頂戴しており，事務局から説明させる。
事務局	<p>2点ご意見を頂戴している。</p> <p>まず，一時保護施設の定員数のうち，資料11ページ下段に記載の定員超過時にも弾力的な運用が可能な施設計画について，「男女比の変動が可能な可動式間仕切を設置する等の検討がなされるようであるが，その際は，簡易的に形だけの間仕切りとすることのないようお願いしたい」とのご意見をいただいている。市としても，保護した児童のプライバシーや安全・安心な生活環境を確保する必要があると考えており，ご意見を参考に，今後の施設整備の検討を進めていく。</p> <p>2点目として，「一時保護施設に配置される職員については，可能な範囲でジェンダーバランスにご配慮いただきたい」とのご意見をいただいている。一時保護施設においては男児・女児を同一施設内で保護することとなり，生活支援・指導を行う職員についてもジェンダーバランスの確保は重要であると認識しており，ご意見の踏まえながら，人員体制等の検討を進めていきたいと考えている。</p>
会長	本日欠席の委員からのご意見は以上である。それでは，ただいまの説明について，ご意見等があればお願いしたい。
委員	複合化について，女性相談所で受ける相談のうち，DV被害に関しては子どもも巻き込まれてしまうこともあるかと思う。女性特有の相談が多いとのことだが，具体的な状況を教えていただきたい。
事務局	女性相談所の相談事案については，女性特有の健康相談や身の上相談が件数の大半を占めていると伺っている。また，子どもが関係するDV被害の相談は年間数件であると把握しており，これらについても，児童相談所等と緊密に連携を図りながら十分に対応できているところである。児童相談所開設後も，こ

	<p>れまで通り緊密な連携を図ることで対応は可能であると考え、複合化の対象とはしないこととした。</p>
委員	<p>子どもが関係するDV事案については、相談内容が重くなることも考えられることから、児童相談所は女性相談所と近くの位置にある方が望ましいのではないかと考える。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり、2つの施設が離れすぎてしまうと適切な連携が図れない可能性があるものと認識しており、児童相談所と女性相談所の距離感についても配慮していきたい。</p>
会長	<p>DVで女性相談所と児童相談所が連携する事案は年間数件とのことだが、子どもが関係するDV被害の情報をキャッチした際に、すぐに連携がとれるような体制を構築しておくことが重要である。他の市町においては、DVと児童虐待が関連した事案について情報共有が円滑に行われず、対応が遅れてしまったこともあると伺った。担当職員間の関係性構築など、連携体制について十分に検討されたい。</p>
委員	<p>児童相談所を設置すると、市が里親への支援も行うこととなる。現在は県域で県がフォスタリングセンターを運用しているが、市の児童相談所においては、昨年に法制化された里親支援センターを複合化して設置することも考えられる。国は里親の活用を推進しており、市としてどのように里親を支援していくのかについても十分に検討されたい。</p>
会長	<p>他自治体の児童相談所では、乳児院に委託一時保護されていた児童と里親のマッチングに3回失敗し、結果的に児童養護施設に措置した事例もあり、乳児院で当該児童を担当していた職員からは、「児童の特性を十分に理解している身として、マッチングにも関わっていきたくかった」との意見を伺っている。運用の中で、多くの方がマッチングに参画できる仕組みについても検討していただきたい。</p>
委員	<p>里親は市内の方のみを対象とし、市外の方は対象としないのか。</p>
委員	<p>県域でも考えるべき。措置権を有する児童相談所が里親を掌握することも重要であり、今後、より良い運営体制を構築するため、県と調整していただきたい。里親支援センターについては、民間事業者の活用も考えられるが、宇都宮市として児童相談所内に設置することも検討していただきたい。</p>

事務局	<p>里親の確保は重要であると認識している。現在は県域でフォスタリングセンターを設置・運用しているが、本市が児童相談所を設置することで、全体の運用も見直さなければならないと考えている。県と協力して広域で運用した方が良い点や、市が独自に運用した方が良い点を整理し、今後、県と調整していきたい。</p>
会長	<p>里親という社会資源を確保していくことが重要であり、現在、運用している県との調整をしっかりと行いながら、宇都宮市にふさわしい運用方法を検討していただきたい。また、短期間でも利用できる里親の確保も重要であり、江東区では、一時保護期間中も転校せずに学校に通うことができるよう、中学校区につき1人以上の里親確保を目指して、民生委員・児童委員等の協力を得ながらリクルート活動を行っているので、参考にされたい。</p>
委員	<p>静岡市では、小学校区に1人の里親確保を行っているので、同じく参考としてほしい。</p>
会長	<p>資料6ページの母子手帳の交付については、利便性の観点から本庁内での取り扱いが望ましいとのことだが、熊谷市等では、複数か所の窓口保健師を配置し、手帳の交付だけでなく、面談も行えるような取組を行っており、日常から家庭の状況把握ができる環境を整えている。宇都宮市としても、このような取組を参考とされたい。</p>
事務局	<p>本市においても、子ども支援課のほか、市内5か所に保健福祉拠点を設置し、母子手帳の交付と併せて保健師が面接等を行える体制を整えている。引き続き、これらの窓口において健康相談や悩み事等に応じるほか、事案によっては、児童相談所やこども家庭センター等に繋ぐ役割も担うことから、緊密な連携を図れる体制を構築していきたい。</p>
会長	<p>今回の議事内容もさることながら、今後の検討事項についての助言等も伺えればと思うが、他にご意見等はあるか。</p>
委員	<p>早期に人材を確保することが重要であり、しっかりと進めていただきたい。</p>
委員	<p>資料8ページの複合後の連携イメージ図を見ると、相談のルートが3つ分かれて示されているが、市民自らが、どこに連絡すべきなのかを判断しなければならないのか。大病院等では、必要な機関に振り分けてくれる総合窓口のような機能を設置しており、こういった手法を用いた方が、市民が悩まずに済むのではないか。</p>

事務局	<p>各地域にある保健福祉拠点については、これまで同様、地域にある身近な相談窓口として運用していく予定である。複合施設内については、資料のルートはあくまでそれぞれの相談に適した機関が対応していくという内部のイメージを示したものであり、ご指摘を踏まえ、市民からの相談の入口については、利便性を重視し、一元的な窓口の設置について検討していく。</p>
会長	<p>市民の利便性向上の観点から、ワンストップの体制整備についても前向きに検討していただきたい。</p>
委員	<p>一時保護施設の定員数について伺いたい。資料11ページに算定の考え方が記載されているが、県の一時保護施設内に宇都宮市の児童が最大で19名保護されていたこととなるのか。</p>
事務局	<p>県の一時保護施設において保護された本市児童だけでなく、一時保護施設では保護できず、やむを得ず児童養護施設等に委託一時保護された本市児童も含まれている。</p>
委員	<p>県の一時保護施設は定員数には達していないのか。</p>
事務局	<p>弾力的な運用が困難なこと、また、男女別の定員の関係等により、全体の定員数に達していなくても一時保護施設で保護できない状況が多くあると伺っている。</p>
委員	<p>現状としては、一時保護施設で保護される児童の倍の児童数が児童養護施設等で委託一時保護されていると考えてもらえるとよい。</p>
委員	<p>19名はそういった委託一時保護された本市の児童も含めた最大保護人数という認識で良いか。</p>
事務局	<p>ご認識のとおり。</p>
委員	<p>児童相談所が市に設置され、身近になることで、一時保護される児童数は増えるかもしれない。一時保護に関しては、警察絡みの事案が多く、現在も、一時保護されるべき児童が一時保護されていない現実もある。</p>
委員	<p>宇都宮市が新たに一時保護施設を設置するのであれば、定員数はより多くした方が良いという考えもあるのではないか。</p>

委員	<p>定員数は多いに越したことはないが、それよりも、一時保護に至る前に十分な支援を行うことが重要であり、レスパイト等として活用できるよう、ショートステイの受け皿を増やすことが必要だと考える。さくら市では、民生委員・児童委員等の子育てに関心のある方に対し、ショートステイに関する説明会を開催するなど、受け皿の確保に努めている。一時保護は最終手段であり、重篤化する前の受け皿の確保に努めてもらいたい。</p> <p>併せて、強度行動障がいの事案については、県も専用施設を有しておらず、児童相談所で対応しなければならない。医療機関との連携において、そういった児童を一時保護する場を確保しておくことも考えられる。</p>
委員	<p>ショートステイはどの段階で活用されるのか。</p>
委員	<p>保護者が冠婚葬祭等で家を離れてしまう際や、第2子等の出産で上の子の養育が困難な際などに利用することが一般的である。最近では、そういった家庭よりも、子どもと一時的に離れたいというレスパイト目的で利用する家庭が多い。児童虐待事案として一時保護せざるを得なくなる前に、疲れ切った保護者を休ませる方策が必要であり、こういった施設を増やしていくことも重要であると考えられる。</p>
委員	<p>市が設置する一時保護施設の定員数は案のとおりで良いが、ショートステイ等の受け皿を充実させる必要があるとの認識で良いか。</p>
委員	<p>ご認識のとおり。</p> <p>体感として、令和5年度より令和6年度の方が一時保護の件数は増えているように感じるが、状況はいかがか。</p>
事務局	<p>令和6年度の上期においては、本市児童の最大保護人数は18名と把握している。委員ご指摘のとおり、里親ショートステイ等を活用し、虐待等の未然防止に努めることは大変重要であると認識しており、早期に県との連携推進会議等で検討してまいりたい。</p>
委員	<p>併せて、ショートステイの利用可能日数の制限緩和についても検討していただきたい。全ての事案を一時保護施設のみで対応することは困難であり、定員数については案のとおりで十分かと思う。</p>
委員	<p>これまでの経験から、一時保護に至る時点で初めて行政が関わる事案が多いように思う。その事案の中には、一時保護という選択でなくても良かったのではないかと感じるほど自立した児童もいた。</p>

	<p>一時保護施設の定員数を増やせば増やすほど、一時保護に頼る運用にも繋がる。今後、様々な子育て支援を充実させ、その効果が出てくることを想定すれば、必要以上の定員数とする必要はないと考える。</p>
委員	<p>強制的に親から引き離す一時保護がたくさん行えれば良いのではなく、一時保護以前の支援を充実させていくことが重要であり、保護者や子どもが限界の時に一時保護できるキャパシティがあれば良いのだと認識した。</p>
会長	<p>大前提として、市のこども家庭センターを中心とした寄り添い型支援の充実が必須であり、令和8年2月を目途に児童相談所設置基本計画を策定することだが、同時に、寄り添い型支援の強化についても引き続き検討されたい。</p>
委員	<p>触法少年の一時保護について、どのような配慮がなされるべきか。虐待等が背景にある児童とは別に保護する必要があるのか。</p>
委員	<p>現状、同じ場所で共に生活している。昔と比較すると、触法少年は少なくなってきた一方で、発達や性的な問題を抱える児童が増えた。こういった児童を集団の中で生活させるためには、適切なアセスメントやケアが必要となることから、一時保護施設の役割を踏まえ、どういった養育が必要なのか十分に研究されたい。</p>
委員	<p>ケアにあたる職員を増やすことも手段として考えられるか。</p>
委員	<p>本来は、小グループで養育できる環境が望ましく、グループホームなどでは、少人数で生活し、子どもに対する職員の数も充実していることで、子どもが様々な考えを表出することができている。一時保護施設の体制等を検討する際には、こういった状況も踏まえながら進めていただきたい。</p> <p>また、子どもは狭い場所や集団に押し込まれると、自身の考えを表出できなくなる傾向にあるため、施設の柔軟性も求められることに留意されたい。</p>
事務局	<p>国の基準においても、一時保護施設は少人数ユニット制が基本とされている。本市としても、子どもの特性を捉え、必要なケアを施すことが重要であると認識しており、ご意見を参考としながら、施設計画や人員体制等に反映してまいりたい。</p>
委員	<p>トランスジェンダーの児童を一時保護する際には、どのような配慮が考えられるか。</p>

委員	小・中学生ほどの子どもは、自身がトランスジェンダーである認識が表面化していない場合が多く、非常に難しい問題である。
会長	江戸川区では、緊急時対応で個別に利用できる居室があると伺った。トランスジェンダーの場合は、こういった事例を参考に、個別対応が必要となるかもしれない。設計段階での工夫も必要となることから、課題の1つとして捉えていただきたい。
事務局	今後の検討において配慮していきたい。
委員	一時保護施設の定員数について、令和5年度の最大保護人数が19名とのことだが、感覚的には、一時保護が必要な児童はもっと多いと思う。家出等の事案においては、児童相談所に身柄付きで通告しても、即時家庭に戻され、当該児童がすぐに行方不明になることが多い。そうなると、警察がまた捜索し、児童相談所へ身柄付き通告するといった繰り返しになることも少なくない。家庭に戻すことも重要だが、一時保護が必要な児童については、一時保護施設等において保護できる体制としていただきたい。
委員	候補地の選定は進んでいるのか。
事務局	選定指標に基づき、今後、選定を行っていく。
	3 その他
会長	その他、質問・意見等はあるか。
各委員	(質問・意見等なし)
事務局	事務局から、2点報告がある。 まず、本日議論いただいた建設候補地について、今後、選定指標に基づき、事務局において建設予定地を選定してまいりたい。なお、建設予定地が決定し、公表次第、委員にも情報提供させていただく予定である。 2点目として、現在、人員体制や人材の確保・育成策等についても並行して検討を進めているところであるが、先般、児童相談所の設置を見据え、令和7年度より、福祉の専門職である社会福祉士の職員募集を開始することとした。なお、児童相談所の「組織・人員体制」や「人材の確保・育成策」に係る具体的な内容については、次回以降の懇談会の議題としてまいりたい。

会長	建設予定地については、選定指標に基づき、事務局で選定作業を進め、決定していく形よろしいか。
各委員	異議なし
	4 閉会
	以上